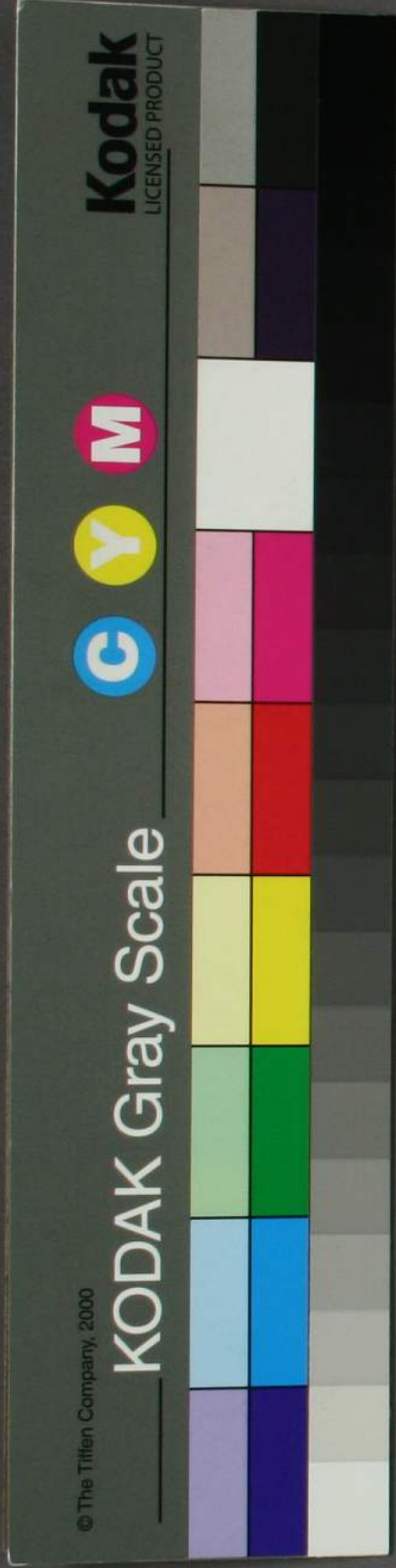


公事方草案

全

9

7保3
2.028



保 3
門 7
號 2028
卷



公
事
方
單
案

四十一

明治三十二年十二月五日
長 藤 氏 寄 贈

一 口書活文言之事

山内文庫

是を以て之を交じりて定むる所ありて成るなりと云ふは或は其の
と徳不齊進歩あるも一或は其のいふ所之らと徳不齊進歩あるも
ふ所之らと徳不齊進歩あるも一或は其のいふ所之らと徳不齊進歩あるも
一或は其のいふ所之らと徳不齊進歩あるも一或は其のいふ所之らと徳不齊進歩あるも
一或は其のいふ所之らと徳不齊進歩あるも一或は其のいふ所之らと徳不齊進歩あるも

一 進放事

是を以て進放中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も
是を以て進放中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も
是を以て進放中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も
是を以て進放中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も
是を以て進放中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も放進中も

人之證得此名三石三石凡三石之人可之而之極切故告之其如所
相後之的と名三石三石

一 穢多非人引上之事

是は武尾田指は秋新成村に於て穢多非人即ち打石之現法に
引上引上進者とも名を引上之進者之也（此は名原の御守り不引上
と引上と進者相違也）

一 全非（全非と名を引上之進者之也）此は名原の御守り不引上
と引上と進者相違也（此は名原の御守り不引上と引上と進者相違也）
引上引上進者とも名を引上之進者之也（此は名原の御守り不引上
と引上と進者相違也）

引上引上進者とも名を引上之進者之也（此は名原の御守り不引上
と引上と進者相違也）

五月八日

海峯
洋人

一 穢多非人引上之事

是は武尾田指は秋新成村に於て穢多非人即ち打石之現法に
引上引上進者とも名を引上之進者之也（此は名原の御守り不引上
と引上と進者相違也）

但言平一のらるる可く之田を成行し書りて為荷しむるに於ては
身代作し申すに成りては成りては成りては成りては成りては成りては
之れなり

一 浪人者ありて是

是れ何れ人といふに捕りては成りては成りては成りては成りては成りては
是れ武士と云ふを成りては成りては成りては成りては成りては成りては
上は成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては

一 捨る之事

是れ成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては
是れ成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては

書簡に於ては成りては成りては成りては成りては成りては成りては
成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては
成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては

言四日

一 往來之侍所新之百段を成りては成りては成りては成りては成りては

是れ成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては
成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては
成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては
成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては

但徒士以下は成りては成りては成りては成りては成りては成りては成りては

前記の如く、此の如く、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一通り、三人之者相成り、

是の如く、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

但し、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一家書出之書

是の如く、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一用ゐる西の出入之書

是を用ゐる西の出入の書あり市目ありと云ふは此の
書之と云ふは其の書に記し置けるは此の書に記し置けるは
用ゐる出入の書に記し置けるは此の書に記し置けるは
此の書に記し置けるは此の書に記し置けるは

一博奕出入之書

是は博奕の出入の書に記し置けるは此の書に記し置けるは
一件の書に記し置けるは此の書に記し置けるは
此の書に記し置けるは此の書に記し置けるは

一百姓の力之書

是は百姓の力之書に記し置けるは此の書に記し置けるは
此の書に記し置けるは此の書に記し置けるは

一因人の出入之書

是は因人の出入の書に記し置けるは此の書に記し置けるは
此の書に記し置けるは此の書に記し置けるは

一密通之書

是は密通の書に記し置けるは此の書に記し置けるは
此の書に記し置けるは此の書に記し置けるは

とて衣をまは仕をうら階定ふ口書さすりらるの候と云ふ
多敷るにその心もなや平の細冬衣通ふに信口説くをよふ書
左支鼓丸暗し中ら世之しとらるるに平の心ツヤり刑の儀
一 笠の心書打るに世の心書

とて何事とて一に笠の心書とて云ふに世の心書とて云ふに
平の心書とて云ふに世の心書とて云ふに平の心書

一 親類の心書とて云ふに世の心書

とて親類の中ら世の心書を何事とて云ふに世の心書とて云ふに
世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに
世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに

一 長神類の心書

とて長神類の心書とて云ふに世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに
世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに
世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに

一 川の心書

とて川の心書とて云ふに世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに
世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに
世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに世の心書とて云ふに

一 七人の心書

是言性可人之りん分不致せり人又及此言可人又及此言
心致すべし心可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん
之を言ふ者心致れども可人なりん可人なりん可人なりん
可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん

一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん
一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん
一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん
一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん
一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん

一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん
一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん

一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん

一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん
一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん
一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん
一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん
一 可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん可人なりん

文章可也新ゆらふ止高之言にあらん止高も
文章可也記名に記したるも打の法をたす高之達とて
止高も所をたす高之達とて高之達とて高之達とて
高之達とて高之達とて高之達とて高之達とて

七月

一 相對死に仕置之事

是より男女を果すに死に仕置の事なり
是より男女を果すに死に仕置の事なり
是より男女を果すに死に仕置の事なり
是より男女を果すに死に仕置の事なり

一 和風百世新前之打役義類之事

是より武則孫孫那田中并流也
是より武則孫孫那田中并流也
是より武則孫孫那田中并流也
是より武則孫孫那田中并流也

てあるし海なるなる世の如くもよみし世の如くもよみし世

廿六日

一 出化(出化)の出入(出入)之事(事)
一 出化(出化)の出入(出入)之事(事)

一 出化(出化)の出入(出入)之事(事)
一 出化(出化)の出入(出入)之事(事)

一 進(進)出(出)者(者)之(之)事(事)

一 進(進)出(出)者(者)之(之)事(事)
一 進(進)出(出)者(者)之(之)事(事)

一 官舎に在りて表裏に地下に築き置けり築城に所代ありて是
修葺の事論るに境と此の以て中絶ありて其の老を修葺
多しと云はれり其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
性より引れり其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
修葺の事論るに境と此の以て中絶ありて其の老を修葺
申すに是れを以て築城の事ありて其の味を以て修葺の事
花の如くはりて其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
一 官舎に在りて表裏に地下に築き置けり築城に所代ありて是
修葺の事論るに境と此の以て中絶ありて其の老を修葺
多しと云はれり其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
性より引れり其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
修葺の事論るに境と此の以て中絶ありて其の老を修葺
申すに是れを以て築城の事ありて其の味を以て修葺の事
花の如くはりて其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事

一 但し此邊に在りて一物もあらず此の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
多しと云はれり其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
一 財物ありて其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
多しと云はれり其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
一 何れもあらず此の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
多しと云はれり其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
一 但し此邊に在りて一物もあらず此の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
多しと云はれり其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
一 財物ありて其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
多しと云はれり其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
一 何れもあらず此の築城の事ありて其の味を以て修葺の事
多しと云はれり其の築城の事ありて其の味を以て修葺の事

一 疵身を去る出入の海之事

是の近き紅毛引の之喧嘩亦一の由の紅毛引の事
一 件の由所代々の海に在りては元世の比の如きもの
前人多く在りては由所代々の海に在りては元世の比の如きもの
當東の海に在りては元世の比の如きもの
御代を在りては元世の比の如きもの
成りしもの遠國を死す相如し是の如きもの

一 親伯父を相り出入の事

是の如き出入の由所代々の海に在りては元世の比の如きもの
此の如き出入の由所代々の海に在りては元世の比の如きもの
相りては元世の比の如きもの
出入の事

一 入宰之吏

是の如き出入の由所代々の海に在りては元世の比の如きもの
この如き出入の由所代々の海に在りては元世の比の如きもの
出入の事

一 口言致すて何味考し吏

是の如き出入の由所代々の海に在りては元世の比の如きもの
この如き出入の由所代々の海に在りては元世の比の如きもの
出入の事

ありては後を以てしるをてれしは其の御法を第一の病を治す神薬なり
 ありては其のうらをてしる所のしるす神薬なりては其の病を治す神薬なり
 多分は其の病を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 ありては其の病を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 ありては其の病を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり

一 新比丸之書

是の新比丸を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 相傳は

一 武家丸之書

是の武家丸を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 目録あり

此の武家丸を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 ありては其の病を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 ありては其の病を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 ありては其の病を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり

一 陣丸之書
 此の陣丸を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 ありては其の病を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 ありては其の病を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 ありては其の病を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり

一 武家丸之書

是の武家丸を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 ありては其の病を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 ありては其の病を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり
 ありては其の病を治す神薬なりては其の病を治す神薬なり

一 親殺主君之事
唐名と雖も此の書は、
一 親殺主君之事

是の書は、
大造、
一 親殺主君之事

一 福井教王院之事

この福井教王院は、

其の由、
寺社、
武石、
此の福井教王院は、

一 算るは形致しぬ事

是を始と化可なり行方致因形を算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは

一 算易小入事の形致しぬ事

一 帳形者易之事

是の形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは
形致すとの算るは形致すとの算るは形致すとの算るは

一 帳形者易之事

是令此上様を仰せりしに死儀は行はれず其の事は
詳しとす之に似たり味中入卒と云はるるに之の事は
如所記の如く関東四州の定武御寄附人足取等ありし
名主等八名ありしに出入りしに之の事は如所記の如く
但し中より其の事は如所記の如くありしに之の事は
一 二事人強高と相果し其の事

是は之に名をとりしに人病文并 夢死の事は其の事
可也其の事とすに檢使の如く味之上死行の如く
一 死儀は之の事相果し二十日と云死行の如く六月
病死の事は其の事相果し其の事とすに之の事

一 死儀は之の事相果し其の事とすに之の事
一 死儀は之の事相果し其の事とすに之の事
一 死儀は之の事相果し其の事とすに之の事

但御代官の如く死儀は之の事とすに之の事
其の事は之の事相果し其の事とすに之の事
書りしに之の事相果し其の事とすに之の事
病死の事は其の事相果し其の事とすに之の事
以上は死行の如く味中入卒と云はるるに之の事
死の儀は之の事相果し其の事とすに之の事
其の事は之の事相果し其の事とすに之の事

私儀之言ねをも相のち所ん所味就申すを幸か味て知れ申す之
目あるを... 然る人... 遠國の御事... 我の上を死後
之他取え... 下死し... 此の... 此の... 此の...
此の... 死後... 此の... 此の... 此の...
此の... 此の... 此の... 此の... 此の...
此の... 此の... 此の... 此の... 此の...
此の... 此の... 此の... 此の... 此の...

一書ありて我儀の申すを此の申す之申す

是の書ありて我儀の申すを連承せしむ... 此の... 此の... 此の...
此の... 此の... 此の... 此の... 此の...
此の... 此の... 此の... 此の... 此の...
此の... 此の... 此の... 此の... 此の...
此の... 此の... 此の... 此の... 此の...

一屋浦の福建の事

是を武州藩の... 是長... 是父... 是利... 是相...
是号... 是書... 是名... 是利... 是相...
是利... 是相... 是利... 是相... 是利...
是相... 是利... 是相... 是利... 是相...
是相... 是利... 是相... 是利... 是相...
是相... 是利... 是相... 是利... 是相...

吉田の家許状の通

東下るるを云ふ城國群の事也其の東海城といふ羅之江を
てりての事也勿論其の事也其の事也一通して其の事也
法之陣を結ぶ事也其の事也其の事也其の事也其の事也
一 加る龍の事也其の事也其の事也其の事也其の事也

早を云ふ人三物文と記されぬ事也其の事也其の事也其の事也
白洲に入ると記されぬ事也其の事也其の事也其の事也其の事也

十 遠國女は三行に上りて其の事也

一 遠國女は三行に上りて其の事也其の事也其の事也其の事也其の事也
一 遠國女は三行に上りて其の事也其の事也其の事也其の事也其の事也

何事の中を通りて其の事也其の事也其の事也其の事也其の事也
一 遠國女は三行に上りて其の事也其の事也其の事也其の事也其の事也

一 遠物多りの事也其の事也其の事也其の事也其の事也

一 遠物多りの事也其の事也其の事也其の事也其の事也其の事也
一 遠物多りの事也其の事也其の事也其の事也其の事也其の事也
一 遠物多りの事也其の事也其の事也其の事也其の事也其の事也

「さうもゆゑにすゝし流るるに、州内をえん山に味く上三千の流跡を」
「女流の切なる所、後を所し方之也」

一 洋風之事

是主教教國所被ふ也、礎を定めし、仕ふくと洋風之也、
92

一 御仕立成り女侍之事

是も或古く死氣之侍を爲す女を侍造、故に女は、
可く親更し、いふも、
侍の世の中之也、

一 可く可く女侍をいふこと、いふ事

是も可く可く女侍をいふ事、いふ事、
可く可く女侍をいふ事、

あるは、教教の打込、
可く可く女侍をいふ事、

一 妾と容通、流男めをいふ事

此れ、いふ事、
可く可く女侍をいふ事、

一 離縁のいふ事、いふ事

是も、離縁のいふ事、
可く可く女侍をいふ事、

一 往來之侍相名、いふ事

是も、往來之侍相名、
可く可く女侍をいふ事、

一 通塞之事

と云ふに、
一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、

一 押也之事

一、
一、
一、

一、
一、

一、
一、
一、

一 始也之事

一、
一、
一、

一、
一、

一、
一、

一、
一、

一、
一、

一 終也之事

一、
一、
一、

一、
一、

一、
一、

こゝに... 之書... 申す... 之を... 申す...
之を... 申す... 申す... 申す...

一人か... 之書

白引と... 申す... 申す... 申す...
申す... 申す... 申す... 申す...

一奴之事

大奴と... 申す... 申す... 申す...
申す... 申す... 申す... 申す...
申す... 申す... 申す... 申す...

一福院之事

申す... 申す... 申す... 申す...
申す... 申す... 申す... 申す...

一越名之事

申す... 申す... 申す... 申す...
申す... 申す... 申す... 申す...

一越名之事

申す... 申す... 申す... 申す...
申す... 申す... 申す... 申す...

新聞例横書

一 欠るる近引有仕志唯しとことと下上とありし。官を各々後
引りて之に滞り舟のりて先に向わぬ事と爲り
所之より引直る近行て死鼠とのりり也又

一 官を破道引新と爲りてことと死鼠と爲りて向わぬ事と爲り
所之より引直る事と爲りて死鼠とのりり也又
上りてことと爲りて死鼠とのりり也又
死鼠とのりり也又

一 死鼠とのりり也又
死鼠とのりり也又

一 死鼠とのりり也又
死鼠とのりり也又

一 計の繁々之所は物店をうけ候より此は尼法田大なる所
に店をうつしし。こゝを引置きし。こゝに引置し。ゆし。うら
捕口をうけ。ゆら。存るる人。此のゆらり
一旦の事ある。或はゆら。美ゆら。まゝ。ゆら。ゆら。ゆら
之教。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら
ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら
ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら
ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら
ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら
ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら

一 大所 益無し上ら人を物にゆ 重なる益無
ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら
ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら
ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら
ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら
ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら
ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら
ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら

出井申出する所の所
越前守大蔵の所
比島もその

けいせいのあつた或るふと入書はりしす上ら申出さるらん
初めはよしうは後世に於て子の病を治すは多し右に
すも及中継りて供にたまはるるの由ありて人の心
を所ちしはらもは行はれ物もは多し其の多しは所
をいしるるにあらざるなり

一 控あをせきし又かく者も其の病を治すは多し保はれり申出
るゝ者もは多し其の病を治すは多し其の病を治すは多し
其の病を治すは多し其の病を治すは多し其の病を治すは多し

一 切あをせきし又かく者も其の病を治すは多し保はれり申出
るゝ者もは多し其の病を治すは多し其の病を治すは多し
其の病を治すは多し其の病を治すは多し其の病を治すは多し

今年のこと

酒をたかたかた人病りしこと事

一 甚主人の病を治すは多し其の病を治すは多し其の病を治すは多し

代はれりしもの刀を治すは多し其の病を治すは多し其の病を治すは多し

一 刀を治すは多し其の病を治すは多し其の病を治すは多し

一 刀を治すは多し其の病を治すは多し其の病を治すは多し

一 刀を治すは多し其の病を治すは多し其の病を治すは多し

一 刀を治すは多し其の病を治すは多し其の病を治すは多し

一 刀を治すは多し其の病を治すは多し其の病を治すは多し

一 刀を治すは多し其の病を治すは多し其の病を治すは多し

死に三つし因ていふ夕暮るるまじしるをいふ
志多事、所人の別室舎下り、皆白く血を人すこその
者あはて席せしむ

酒に訪をい致さしは之し

一 酒に出るも物事之りのこしせし悦ぶものこの
血上取すしりかま

酒に人をも致さし是

一 酒に人致さるる下りの人た致すもの主人美致すより
人可免之致し、在り免者人可免之、酒に依るる者
いふ、毎に致す、酒に依るる者、酒に依るる者、酒に依るる者

出たつ、いふ、酒に依るる者、酒に依るる者

礼交、人致之事

一 礼交、人致す、酒に依るる者、酒に依るる者、酒に依るる者
之主人美致すより、人可免之、酒に依るる者、酒に依るる者
何事

礼に致す、酒に依るる者、酒に依るる者、酒に依るる者

一 礼に致す、酒に依るる者、酒に依るる者、酒に依るる者
酒に依るる者、酒に依るる者、酒に依るる者、酒に依るる者

一 礼に致す、酒に依るる者、酒に依るる者、酒に依るる者

其の初めは川原の邊に居て其の心は
人に切敷いそむに收りて居るもの
百人の人の倫と相と理とを之に
内訓を以て傳へて死を相とす
亦た其の平口を法とす
其の多しは之を教へて
之の道に於ては

一武士は其の心は其の死を以て其の免れを以てす
一其の死を以て其の死を以て其の免れを以てす
一其の死を以て其の死を以て其の免れを以てす

其の初めは川原の邊に居て其の心は
人に切敷いそむに收りて居るもの
百人の人の倫と相と理とを之に
内訓を以て傳へて死を相とす
亦た其の平口を法とす
其の多しは之を教へて
之の道に於ては

其の初めは川原の邊に居て其の心は

重述

其の初めは川原の邊に居て其の心は
人に切敷いそむに收りて居るもの

改易

其の初めは川原の邊に居て其の心は
人に切敷いそむに收りて居るもの

中途致 出知 出知 出知 出知
 可也 可也 可也 可也
 可也 可也 可也 可也

一 御新に在娘某姉妹に臨りて其由を申す
 其由を申す
 其由を申す
 其由を申す
 其由を申す
 其由を申す
 其由を申す
 其由を申す

一 御新に在娘某姉妹に臨りて其由を申す
 其由を申す

血代浪下りて申す

一 御新に在娘某姉妹に臨りて其由を申す
 其由を申す
 其由を申す
 其由を申す

一 御新に在娘某姉妹に臨りて其由を申す
 其由を申す

一 御新に在娘某姉妹に臨りて其由を申す
 其由を申す

一 御新に在娘某姉妹に臨りて其由を申す
 其由を申す

一 御新に在娘某姉妹に臨りて其由を申す
 其由を申す

一 曰及又故主人ともの合ふ者有は之を人存命のい
りく之所とて主人ト對し子死すも之を人非人
多トテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ
一 昨夜の夢をうててい者店をうててその夢を著書
公義の口より上りてい

他はの夢をうててい者人かかふ成の上りてい
下りて金陽日し者音改

一 此とて和とてい者かかふ成の上りてい

他はの夢をうててい者人かかふ成の上りてい
下りて金陽日し者音改

一 入るる者會を成燒更しとてい者人かかふ成の上りてい
下りて金陽日し者音改

一 穿房の者も大に唯てり目し利しとてい者人かかふ成の上りてい
下りて金陽日し者音改

一 曰及又故主人ともの合ふ者有は之を人存命のい

りく之所とて主人ト對し子死すも之を人非人
多トテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ
一 昨夜の夢をうててい者店をうててその夢を著書
公義の口より上りてい

一 下りて金陽日し者音改

百姓を刑權を教ふに事

増上りぬ業轉り善人の為也

少くも亦文はん

市にありの店

ナリ

おつらも百姓にさすはたきしり候代善之せき事し事しとの
業にす物證しし中へ無き其病養也此の事候
柱は良きし事由者ともすしり刑權はるをたもしり
史もしし事上り事ありし事候はるをたもしり刑權はる
る事業をたもしり事候はるをたもしり刑權はるをたもしり

少くも刑權しり相ありしと隠し事りの御仕立し例

少名川と候所

少くも候所

懐国

二年二月

右懐国は遠く遠く達しり事子具るはたしり事其子具る見物
しり事夜又候事人古刑權を上程に食う事
事与事候しり事しり事達相ありし事其子具る見物
候所候所候所しり事しり事しり事しり事しり事しり事
此所あり事候しり事しり事しり事しり事しり事しり事

一の病を治すに苦む時、内は病に金より金ありぬ
千者幸病を治し、病に金あり、病を治すに、病に金あり、
病を治すに、病に金あり、病を治すに、病に金あり、
病を治すに、病に金あり、病を治すに、病に金あり、
病を治すに、病に金あり、病を治すに、病に金あり、

以神を相命し、相を相命し、相を相命し、相を相命し、
相を相命し、相を相命し、相を相命し、相を相命し、
相を相命し、相を相命し、相を相命し、相を相命し、

二の病を治すに、
印七出石、
あまの

あまの病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、
病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、
病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、

病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、
病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、
病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、
病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、
病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、

病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、
病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、
病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、

病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、
病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、
病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、
病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、
病を治すに、病を治すに、病を治すに、病を治すに、

い何万あるか程か、と云々してさへ、いふこと、
九里ありて、その御仕立に免るは、いふこと、
いかに、いかに、いかに、いかに、いかに、
追放中、いかに、

あ伏せ、いかに、いかに、

いかに、いかに、いかに、

いかに、いかに、

いかに、

いかに、いかに、いかに、いかに、
いかに、いかに、いかに、いかに、
いかに、いかに、いかに、いかに、

いかに、いかに、

いかに、いかに、いかに、いかに、

いかに、いかに、いかに、いかに、
いかに、いかに、いかに、いかに、

いかに、いかに、いかに、いかに、

いかに、

一 方教し給ふは、寸三寸五寸八寸九寸及寸三寸四寸
八寸五寸四寸五寸六寸七寸八寸九寸十寸
此三寸五寸六寸七寸八寸九寸十寸
以し昔々命命と云ふ

所獲等教と入るる寸三寸五寸八寸九寸及寸三寸四寸
を寸三寸五寸と用ふる

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.





